

余市町水道ビジョン



平成 24 年 3 月

余市町建設水道部水道課

余市町水道ビジョン 目次

1.はじめに	1
2.余市町水道ビジョンの位置づけ	2
3.水道事業の概要	
3-1.水道事業の沿革	3
3-2.水道施設の概要	12
4.現状の分析と課題	
4-1.安心・安全	20
4-2.安定	25
4-3.持続	35
5.将来像の設定	40
6.目標の設定と実現方策	42
7.おわりに	45
資料	
「余市町水道ビジョン」に係る住民アンケート調査結果	46

1. はじめに

本町の水道事業は、昭和 25 年に創設され、余市川を水源として昭和 29 年に通水を開始してから 57 年を経過しています。この間 7 期にわたる拡張事業を経て、平成 22 年 4 月 1 日には給水区域の拡張と簡易水道事業を統合する第 8 期拡張事業の経営認可変更により、計画給水人口 21,360 人、計画給水量 9,320m³/日として現在に至っています。

本町の水道普及状況は平成 22 年度末で 97.5%となっていて、平成 21 年度末の北海道の平均値 97.7%を 0.2 ポイント下回っているものの、全国平均と同じ値の普及率を達成し、公衆衛生の向上と生活環境の改善に大きく寄与するとともに、町民生活に欠かすことのできない重要なライフラインとなっています。

しかし、日本全体が人口減少の時代を迎えた今、本町でも少子高齢化や人口の減少は進むことが予想され、かつてのような高度経済成長は望めない中、水道使用量の減少も予測されています。

一方、創設当時や昭和の時代に整備された老朽化施設の更新や、地震など災害に備えた信頼性の高い水道施設の構築など、料金収入の増加を伴わない施設整備への投資が必要となってきています。

また、水道が町民生活のライフラインとして定着した現在、水道水の安全性やおいしさに対するお客様ニーズの多様化・高度化をはじめ、環境問題への取り組みなど、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

水道は快適な生活や都市活動を営むうえで欠くことのできない重要なライフラインであり、安全で安心できる水の持続的な供給を確保するために、現状に満足するのではなく、水道の信頼を維持する努力を継続し、将来ともよりよい水道サービス水準の提供を目指していくことが求められています。

このような中で、厚生労働省は、水道関係者が共通の目標をもち、互いに役割を分担しながら連携してその実現に取り組むために、我が国の水道の現状と将来の見通しを分析・評価し、今後の水道に関する重点的な政策課題と、具体的な施策及び方策、工程等を示した「水道ビジョン」を平成 16 年に作成するとともに、各水道事業者が自らの事業を取り巻く環境を総合的に分析した上で、経営戦略を策定し、それを計画的に実行していくことが必要であるとして、「地域水道ビジョン」の作成を推奨しました。

これを受け本町では、余市町水道事業の目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を示すものとして「余市町水道ビジョン」を作成します。